



だいたいようぶ、だいたいようぶ

〈北海道〉

おかだ 美優 みゆ 23歳

「だいたいようぶ、だいたいようぶ」と、患者さんに言われたことがあります。

看護師1年目の私は患者さんと接するとき、自分を落ち着かせるために確認したことに対し「よし！」と声を出していました。患者さんにとっては、確認しては「よし！」と言われ、あまり良い気持ちはしないかもしれませんが、焦る自分を落ち着かせるために、つい口に出してしまっていました。

その患者さんは、私が1年目であり、気持ちを落ち着かせるために「よし！」と言っていることを察してくれ「だいたいようぶ、だいたいようぶ。焦らなくていいよ。私は、ただベッドにいるだけだから仕事して」と言ってくれました。私はその言葉にとっても救われましたが、患者さんに焦りを見せてしまっ

たことを申し訳なく感じました。

「そんな優しい言葉を掛けていただき、ありがとうございます。でも、お気を遣わせてしまい、すみません」と伝えると、「だいたいようぶって言われると、本当にだいたいようぶな気がしてくるんだよ。『だいたいようぶ、だいたいようぶ』っていう絵本があって、その中にも、だいたいようぶって言われると本当に何でもできる気がしてくるし、実際に何でもできる——って書いてあったよ。絵本では、じいちゃんが孫に『だいたいようぶ』と言っていたら、何でも本当にだいたいようぶになって、孫はその言葉のおかげで成長していくんだ。大きくなったある日、じいちゃんが病気になるから孫がじいちゃんに『だいたいようぶ、だいたいようぶ』って伝えるに行

くんだよ」と話してくれました。

私はその日の仕事終わりに、その絵本を本屋さんに見に行きました。その数日後、患者さんは亡くなってしまいました。私が、亡くなる前日、私は患者さんに「だいたいようぶ、だいたいようぶですよ」と伝えると、小さな声で「ありがとうございます」と言ってくれました。

私は看護師2年目になりました。今では「よし！」の代わりに心の中で「だいたいようぶ、だいたいようぶ」と心を落ち着かせるようにしています。すてきな言葉を掛けてくれた患者さんに感謝の気持ちを忘れずに、自分、そして患者さんを安心させるために「だいたいようぶ」と心の中で思ったり、あるいは患者さんに伝え、今日も仕事をがんばっています。